

# 黄梁夢

芥川龍之介

青空文庫



盧生ろせいは死ぬのだと思つた。目の前が暗くなつて、子や孫のすすり泣く声が、だんだん遠い所へ消えてしまふ。そうして、眼に見えない分銅ぶんどうが足の先へついてでもいるように、体が下へ下へと沈んで行く——と思つと、急にはつと何かに驚かされて、思わず眼を大きく開いた。

すると枕もとには依然として、道士どうしの呂翁ろおうが坐つてゐる。主人の炊かしいでいた黍きびも、未だに熟まさないらしい。盧生は青磁の枕から頭をあげると、眼をこすりながら大きな欠伸あくびをした。邯鄲かんたんの秋の午後は、落葉おちばした木々の梢こすえを照らす日の光があつてもうすら寒い。

「眼がさめましたね。」呂翁は、髭ひげを噛みながら、笑えみを噛み殺すような顔をして云つた。  
「ええ」

「夢をみましたらう。」

「見ました。」

「どんな夢を見ました。」

「何でも大へん長い夢です。始めは清河せいかの崔氏さいしの女むすめと一しよになりました。うつくしいつつましやかな女だつたような気がします。そうして明ある年、進士しんしの試験に及第して、渭南いなん

の尉いになりました。それから、監察御史かんさつぎよしや起居舎人きぎよしゃじん知制誥ちせいこうを経て、とんとん拍子に中書門下平章事ちゅうしよもんかへいしやうじになりましたが、讒ざんを受けてあぶなく殺される所をやつと助かつて、驩州かんしゅうへ流される事になりました。そこにかれこれ五六年もいましたろう。やがて、冤えんを雪ぐ事が出来たおかげでまた召還され、中書令ちゅうしよれいになり、燕国公えんこくこうに封ぜられました。が、その時はもういい年だったかと思ひます。子が五人に、孫が何十人とありましたから。

「それから、どうしました。」

「死にました。確か八十を越していたように覚えていますが。」

呂翁ろおうは、得意らしく髭を撫でた。

「では、寵辱ちやうじよくの道も窮達きゆうたつの運も、一通りは味わつて来た訳です。それは結構な事でした。生きると云う事は、あなたの見た夢といくらも變つてゐるものではありません。これであなたの人生の執着しゅうじやくも、熱がさめたでしょう。得喪とくそうの理も死生の情も知つて見れば、つまらないものなのです。そうではありませんか。」

盧生ろせいは、じれつたように呂翁の語ことばを聞いていたが、相手が念を押すと共に、青年らしい顔をあげて、眼をかがやかせながら、こう云つた。

「夢だから、なお生きたいのです。あの夢のさめたように、この夢もさめる時が来るでしょう。その時が来るまでの間、私は真わたしに生きたと云えるほど生きたいのです。あなたはそう思いませんか。」

呂翁は顔をしかめたまま、然しかりとも否いなとも答えなかつた。

(大正六年十月)



# 青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集2」ちくま文庫、筑摩書房

1986（昭和61）年10月28日第1刷発行

1996（平成8）年7月15日第11刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版芥川龍之介全集」筑摩書房

1971（昭和46）年3月～1971（昭和46）年11月

入力：平山誠、野口英司

校正：もりみつじゅんじ

1997年11月10日公開

2004年3月12日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 黄梁夢

芥川龍之介

2020年 7月18日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>